

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	普通に当たり前の生活を支えるサービスとして、地域密着型の意義を理解、把握した上で事業所の理念を作成している。		
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日、毎回の申し送りにて、理念を唱和し、理念が身近に感じられるよう、理念の浸透を図り、ケアの実践のなかでいかせるように取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	ご家族には面会時、家族会等で理念を共有し、認知症介護について共に考えている。地域の方々にも訪問時及びホーム便り等を活用し認知症介護を理解してもらえよう話し合う機会をつくっている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	随時にドライブに出かけ、近くの店で買い物をしながら、「地域とのふれあい」を行っている。また、顔見知りの方には親近感を持って接し気軽に立ち寄ってもらえよう話し掛けている。		
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	昨年10月頃から、これまでの受け入れの交流から、地域の中へと交流のあり方を考え、実践に結び付けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所でのケアの実践を踏まえて、人材育成への貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。又、電話等での相談も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価内容の意義、目的を全職員に伝え、全職員で自己評価を実施。改善課題を表にまとめ目標をたて、改善に向けた計画内容に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員メンバーへ事業所の取り組み状況を報告し、率直な意見を会議録に記録しスタッフ間で閲覧、ケアや業務に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者にホームの見学や気軽に立ち寄ってもらえるよう、ホームの行事や活動を事前にお知らせしている。	○	認知症ケアについて共に学習する機会を設け、事業所のサービスの質の向上に取り組みたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員、計画的に権利擁護の勉強会を開催、学ぶ機会を設けている。ホーム内でも資料を配り職員の自主勉強の啓蒙を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の関わりで、気づきやサインを把握し、何が虐待なのか、抑制とはどういうことかを、ことあるごとに話し合うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約書に基づいて、契約や解約時には十分に納得が得られる説明を行っている。後日でも疑問点があれば説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関や電話等にて法人担当苦情受付係りへ相談が出来やすい表示を行い、連絡先等を表示している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の生活状況、金銭管理等も定期的に収支報告を行っている。職員に、異動がある場合は家族にもホーム便りにて報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>サービス適正化委員会、国保連、市町村、介護保険広域連合の電話番号を表示し、外部の機関にも、相談が出来るよう連絡先を掲示してある。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期の全体会議で、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。随時スポットミーティングも行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯の勤務者を確保する為に勤務・業務調整を随時行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の事業所間の異動は最小限に抑えて、馴染みの職員の確保に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を受ける機会を各職員に伝え、研修参加の機会を設け、研修が受け易い環境づくりを行っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>沖縄県グループホーム連絡会主催の施設見学研修等を通して、同業者との交流を図り、サービスの質の向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減の為、各種研修への参加呼びかけ職員同士の相談等がしやすいように環境づくりを行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課制度を実施しており各職員の目標を定め、職員の努力及び実績等を評価している。就業規則に定められた勤務体制を実施し、無理のない環境づくりを行っている。</p>	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所間もない方は常に様子観察、ご家族と相談を行いケアの方法等を話し合い進めている。不安がないよう笑顔で接し、優しい言葉掛けで馴染みの関係を深めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族から相談があれば、可能な限りの検討と相談を受けご家族の不安の軽減を図っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、最大限の努力を行い必要としている支援を検討し、随時ご家族との話し合いを行って対応を検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が馴染むまで、様子観察を行い、さらにご家族からの聞き取りで本人の把握に努めケアの実践を進めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と対等の関係であることを認識し、相手を尊重、敬うことで持ちつ持たれつの支えあう関係を築き共に生活を楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の思いに寄り添いながら、日々のくらしの出来事や気づきの情報を共有し、本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで支援を行う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、電話等にて日常生活状況を、ご家族に報告し、ご家族の思いを聞き受け止めることで、良い関係が築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会帳の記載から訪問者がわかるので、それをもとに馴染みの訪問客が増えている。職員もまた来てくれるよう気軽に声をかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格を把握、気の合う利用者同志(またはその逆)の席の配置、余暇時間の過ごし方等について最大限の配慮を行なっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了者の移動先での安否も確認し、関係を保てるよう対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの発する言葉、表情を注意深く観察し、その思いに添うよう努力している。大切だと感じる感性をケアプランや日誌に記しスタッフ全員で共有している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、一人ひとりのこれまでの暮らしの把握に努めている。ご家族へも協力を求め、貴重な情報をケアプランに活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズム・パターンを把握するため、センター方式シートを活用している	○	センター方式の学習会を継続、シート記入に慣れてもらう。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定例会議等で、本人をよく知る為に十分なアセスメントとカンファレンスを行い、本人の視点で身体機能・精神心理・社会環境状況等を把握して介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のケア実践状況、効果など評価(モニタリング)するとともに、状態変化がある場合は状況に応じて検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録はそれぞれのケアプランに添って記録しているが、日々の様子や気づき、新たな発見の様子の記録はスタッフによってばらつきがある。	○	全スタッフが個別ケア記録、業務日誌等の適切な記録ができ、且つ実践につなげられるよう、【介護記録の書き方】の学習会を持ちたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーション及び訪問診療、外出の際の介護タクシーの利用等を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域との接点が見出せるよう、近隣への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身だしなみを整える為、定期的に訪問理美容サービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員も運営推進委員として活動しており、相談及び支援が受けられる体制になっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期及び随時の受診時には介護サマリーにて生活及び身体状況情報提供の報告を行っている。ご家族と共に必要な場合は職員も受診対応を行っている。		

沖縄県(グループホームいなほ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>地域包括支援センターから派遣される運営推進委員の中に保健師がおり、健康面、精神面の相談・アドバイスが受けられることが期待出来る。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>今後重度化した場合の話し合いを検討して行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>終末期等については、ご家族にも医療を受けながら等の考えがあり、検討中です。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内勉強会や定時ミーティングの時に、利用者の誇りやプライバシーを損ねないような対応を折りにふれて話し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人からの話し掛けには極力耳を傾け、思いや希望に添えるよう努めている。家事支援や手工芸等の活動時には、一人ひとりの個性や持てる力を考慮し働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調に合わせて、食事、入浴、余暇(レク・散歩)の個別の過ごし方を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や理美容は、基本的に本人(家族)の意向で決めており、職員は支援が必要な時に手伝うようにしている。またおしゃれが楽しめるような働きかけを積極的に行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気作りを大切にしている。食事時の支援は、一人ひとりの力に応じて、盛り付け、配膳、食後の食器洗い等、手伝わってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常会話のなかで本人の嗜好を聞き、おやつや誕生日会の時に本人の好きな食物を優先して楽しんでいただけるようにしている。	

沖縄県(グループホームいなほ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表から個々の排泄パターン・レベルを把握し、日中は全員トイレ誘導を実施。夜間も出来るだけトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人(家族)の入浴の希望を取り入れ、心から入浴が楽しめるよう、浴槽の活用や、本人の入りたい時間帯などを考慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンを把握し、体調にあわせた休息が取れるよう、夕方からは穏やかに過ごせるよう、配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの個性から、その発揮出来る力を見極め、役割づくりの支援を行ない、楽しみ事や趣味活動につなげている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理規定を定め、ご家族と相談し、小遣い銭管理を行い、外出等にて、買い物を楽しんでいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期に外出する機会はあるが、日常的に本人の希望に添って気軽に外に出られる機会が少なく、検討課題である。	○	特に帰宅願望の強いご利用者には、気分転換が図られるよう、その人に合わせた外出の機会を設けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期の屋外活動を月2回実施。日頃出かけることの少ない遠出やショッピングを楽しんでいただいている。行きたい場所は事前に本人やご家族から聞きだし出来るだけ希望に添った外出を心がけている。	○	屋外活動には、ご家族への参加も呼びかけているが日程の調整が難しく検討課題。

記入日:平成21年1月15日

沖縄県(グループホームいなほ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望で落ち着かない方には、家族やなじみの人に連絡をとり、会話や声を聞いてもらうことで安心を得られるようにしている。また不定期ではあるが、利用者の日常の様子を知らせようと、個人個人に手紙の支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やなじみの方たちが訪問しやすいよう、気配りや雰囲気作りを大切にしている。事務所に設置してある面会帳はご家族の交流記録になっており、コミュニケーションの橋渡しになることがある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護及び身体拘束には特に注意を払い、ホーム内で勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人で外出してしまいそうな利用者には、職員間の声かけ、連携を図りながら、利用者の行動を見守り、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	帰宅願望で常に外に向かう利用者や自室で過ごすことの多い利用者には、職員同士、常に声をかけあい、所在を確認しつつ安全面の配慮を行なっている。その際、プライバシーの配慮を怠らないように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律に全てを取り除くことはなく、利用者の状況によって注意を促していくなどケースに応じた対応を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態から予測される危険を予知し、ヒヤリハット・事故報告書の記録から事故を未然に防ぐための工夫や話し合いを積極的に行なっている。		

沖縄県(グループホームいなほ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変、事故発生時に備え、職員全員が勉強会にて体験、体得するようにしている。夜間時の緊急時対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施しており、法人全体での訓練を消防署の協力を得て行っている。地域及び全職員の非常召集連絡網があり、緊急時に備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に起こりえるリスクや不可抗力については、面会時や家族会等で状況報告し、対応策を話し合い、理解、協力を仰いでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の体調変化についてはバイタルチェック表に記入し常に申し送りをを行い、職員間で情報を共有し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況が確認出来るよう薬ケースの横に処方箋表を貼り把握に努めている。必要に応じて薬についての勉強会を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事メニューは植物繊維や野菜の食材を多く取り入れるようにし、便秘への対応を行っている。また個々に合わせた機能訓練や、毎日のラジオ体操で身体を動かす働きかけをし、便秘の予防に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは習慣として定着しており、食事が済むと、職員は声かけを行い、それぞれの口腔状態、力に応じて支援している。		

沖縄県(グループホームいなほ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の状態に合わせた食事量、栄養バランスを考えメニューの作成を行なっている。水分補給も重要なケアとして認識し、全員の水分量の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを常備し、常に確認出来るようにしている。感染症の時期には外部研修や勉強会の機会を積極的に設け啓発を行ない、感染症予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為、調理器具はハイター浸け置き後、熱湯処理をして衛生管理に努めている。職員は正しい手洗いを実行するよう声かけと張り紙による注意を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関口までの通路には、観葉植物や中学生のボランティアからプレゼントされた花鉢を置き、誰もが安心して出入りしやすい雰囲気作りをしている。また玄関前には、気軽に休憩したり、会話が楽しめるようベンチを設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間及び個室でも音量に配慮し、光についてもカーテン等で調整できるようになっている。共用の場所は季節感を味わえる壁面や日常の活動写真等で生活観を楽しんでいただいている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、それぞれが気軽に過ごせるよう、ソファの配置、畳間の空間の活用等、一人ひとりに合った過ごし方に配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は本人が、日常使い慣れた物等の持込が可能であり、ご家族には持ち込みについて説明をし協力を求めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日換気には配慮し、午前中、調理後などは積極的に換気を行っている。4ヶ所に温度計を設置、温度管理を行い、外気と室内温度に大きな差がないよう管理している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーになっており、廊下及びトイレ等は手摺が取り付けられ、安全に歩行等が見守れる環境になっている。、廊下は回廊作りで調理中でも利用者の行動が見守れる構造になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのもてる力に応じて声かけの工夫や家事手伝い等で、失敗させない体験を心がけ自信を持って生活が楽しめるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは外周が出来るようになっており、散歩や掃き掃除等を一緒に楽しめる支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホームいなほ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年10月頃より地域交流への取り組みに力を入れ、ご利用者が地域に赴く機会が多くもてるよう、近隣の中学校、保育園、地域行事等の活動に働きかけています。またホームの行事(母の日会、誕生日会、敬老会、クリスマス会等)にも、地域の方々が気軽に参加していただけるよう、日頃から声を掛けなじみの関係作りを大切にしています。